

## 第4回 国スポ改革タスクフォース 議事概要

1. 日時 令和8(2026)年5月29日(金)10:00~12:00
2. 場所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階大会議室「スタジアム」
3. 出席者(敬称略、※印はオンライン出席者)

全委員19名のうち、出席14名(対面11名、オンライン3名)、欠席5名

### 【委員】

座長:山本浩

委員:稲村彰映、日比野克彦※、森章、忠鉢信一、上林功※、高岡敦史、檜崎教子※、皆川賢太郎、坂東美紀、藤原正樹、宮原耕史、富樫誉、石田裕美

<欠席:坪井純子、松井信乃、村松佐和子、岸郁子、磯貝美奈子>

### 【陪席】

スポーツ庁、全国知事会

### 【日本スポーツ協会(JSPO)】

森岡裕策専務理事

国スポ推進部 計7名

## 4. 報告事項

### (1) 第3回 国スポ改革タスクフォース議事概要

前回会議の議事録を作成した旨を報告。

### (2) 第5期実施競技選定、国スポ改革先行大会

第5期実施競技選定の結果及び国スポ改革先行大会の実施、同大会の開催に向けて国民スポーツ大会委員会の下に「国スポ改革先行大会ワーキンググループ」を設置することについて報告。

<主な質問や意見>

発言等
○ ダンススポーツの種目はどのようなものを予定しているか。
○ ブレイキンと社交ダンスを予定しているが、NFと協議をして進める。(事務局)
○ フェンシングのショーアップについて考えやアイデアがあれば教えてほしい。
○ フェンシングは魅せるスポーツとして工夫をしてくれている。照明等を用いたライトアップなどをイメージしている。国スポ以外の競技会で実績がある。(事務局)
○ 東京2020大会時に剣先の動きがわかる、ヒットした瞬間をARで体験できる、などの提案があったが、実現しなかった。大会を通じて競技そのものの見せ方を変えることができる競技の一つであると考えている。
○ フェンシングは野外で行う大会もある。興行としても良い競技と考える。剣先の「見える化」を行い、アカデミックな部分とショーの要素を持ち合わせた工夫ができる競技である。
○ 改革先行大会は令和14年からの大会であり、その4大会の中で、改革を試行すると理解したが、地方経済の活性化が目的であり、この2競技が選ばれたということで良いか。
○ 地方経済の活性化もそうであるが「魅力ある大会づくり」の観点からこの2競技を採用し

た。(事務局)
○ 4大会通じて2競技が行われるということで良いか1大会ごとに変わるのか。 この4大会が終了したあとはどのようになるか。競技会の分散化や固定化なども考えていくのか。また、開催地は本大会が開催される山梨県～三重県となるのか。
○ 4大会を通じて2競技を行う。4大会終了後については決まっていない。あくまで、山梨、鳥取、沖縄、三重県で行う大会は37競技の秋に行う本大会であり、改革先行大会では、開催地の固定化や分散なども視野に入れて開催地選考を進めていく。(事務局)

## 5. 協議事項

### (1)「I.大会の特徴について」

事務局から資料に基づき説明。都道府県対抗の意義や競技区分について協議を行った。

#### <主な質問や意見>

発言等
○ 都道府県対抗については、開催側、選手育成の立場を経験した身から一定の価値があると考えている。維持することが地域のモチベーションにもなる。
○ 対抗するというのは「何を」対抗するのかが決まらなないと判断できない。競技成績をとると、先に成績の決め方を決めなければならない、競技成績以外の観点で都道府県対抗とできる部分があるかわからない。国スポは何のために行うのかを考えなければならない。
○ 都道府県対抗と総合成績は切り離せないものと考えている。競技以外の観点をどのように「都道府県対抗」に結びつけていくかは検討の余地がある。どういうチーム編成を行うか、という観点では都道府県という枠が良いと考えている。地方の目的が見失われてしまう。
○ 都道府県対抗については、知事会の中でも意見が二つに分かれている。選手の引き抜きなど無理をしている原因は都道府県対抗にあるのではないか、また、人口減少の中で地方の県が勝てるのかといった意見がある。総合成績についても、各競技で1位を多くとった県が良いのではないかと、見直しに関する意見があげられている。
○ 何のための対抗かは、「大会の理念」を実現するためという考えで良いのではないか。前提となっている提言を見直すと、人口減という言葉が出てこない。今後10年だけでも大きく状況が変わる社会の中で、都道府県対抗を維持することが良いのかは検討する必要がある。一定の地域が勝てなくなってしまう大会となることが良いことか。オリンピックのように「参加できることに意義がある」という大会にすることができるか。現状の得点システムでは地方の県に勝ち目は無い。ポイントのつけ方を工夫するのか、ポイントを付けないようにするのかを検討しなければならない。
○ 今後の議論を踏まえて、都道府県が開催したい、参加したいと思う大会や仕組みにすることが何よりも重要だと考えている。
○ 一つを決めないと決まらないという議論になってしまっているが、都道府県対抗を見直すのであれば代替案も提示してほしい。
○ 都道府県対抗というのは、「都道府県から選手を選出する仕組み」と「対抗」に分けて考えたほうが良い。大会の在り方として選手をどのように選ぶのか、という観点について都道府県という区分を設定している。大きな大会でもそのように行っている。

<p>○ 都道府県スポーツ協会の立場では、都道府県でチームを編成するということが地域のスポーツ振興に価値があると感じている。選手を招き入れることに負担を感じるということもあるが、招き入れた選手がその地域に定着して、新たなスポーツ文化を醸成することもあり、否定的な側面だけではない。勝つことだけを目的とすると勝てない県も出てくるが、それ以外の価値をどのように見出していくかを考えていく必要がある。</p>
<p>○ 地方活性化として、関係人口を増やすことが重要という意見がある。プロスポーツでは 10 代の選手を育成したクラブ・地域に、移籍金の一部が還元されるなどお金が入ることもある。何か数字で地域の特性を評価できるようになることが良いのでは。新たな競技区分に応じて、ポイントのつけ方を工夫する必要がある。加えて都道府県の立場でも、自県でどのように数字や評価を活用していくかが重要ではないか。</p>
<p>○ 都道府県対抗に賛成。皆のアイデンティティを考えたときに都道府県が良いのではないか。甲子園でどれだけ越境で選手が集まっても地元の高校を応援する。一方、全スポでも課題として、小さな県において「出場資格はあるが、選手の選出ができない」ということがある。ブロック単位での出場を認めることや都市対抗野球のように負けたチームからの助っ人を認めるなどの考えもある。</p>
<p>○ チームは都道府県単位で出るのが良い。理念を踏まえると「競技性」と「祝祭性」と「社会性」の 3 つがある中で都道府県対抗は「競技性」の観点と考えている。総合成績をつけることは「競技性」を表現すること「だけ」と言えば良いのではないか。大会理念として 1/3 の観点を表現しているにすぎないと打ち出す。「祝祭性」も「社会性」も同じように評価ができると良い。</p>
<p>○ この TF では、各都道府県に動機があって立候補してもらった仕組みを検討することが求められる。選手には大会に出場することの評価をしてあげることが重要ではないか。前回会議では、JSPO が総合表彰式を行うという案が提案されたが、閉会式を行うことで、評価されたいという開催県の思いも、汲む必要がある。</p>
<p>○ 残る論点は「ふるさと(郷土)を代表する選手が、スポーツを楽しみ大会をみる人やささえる人を巻き込む集い」をどのように表現するかと感じている。都道府県対抗によりアイデンティティが形成されるということはある。国スポはふるさととか地域づくりを果たすために大会を行うのかと考えると大会の意義に迷うところもある。</p>
<p>○ 国スポがアイデンティティを高めることもアイデンティティが高い人が国スポに関心を持つということもある。社会発展の様子を考えると、多拠点生活を行うなど多くの県に関わっていく個人が多くなる。国スポを契機に関係人口が増えることにつながれば良い。なにもこの「ふるさと」は一つだけでなく良いのではないか。</p>
<p>○ 都道府県対抗でなくなった場合、少年種別も含め参加費・旅費等全て個人負担となるが良いか。何を背負って大会に参加するかを考えてほしい。直近 10 年で大きく変えることは難しいと考えている。</p>
<p>○ マーケティングの観点でも国スポが続くためには収入の議論もしなくてはならない。重要なのは収入源となるが、全ての競技で有料化した際に、生活者から問われるのはどれだけ魅力的であるかどうかだと思う。陸上界では、世界陸上は東京の場合 9 日間で全種目あったが、全ての日程が完売したわけではなく、決勝がある日程が売れた印象がある。一方、世</p>

<p>界室内大会は 3 日間で行われており、出場選手も限られており、種目数も限られているため、チケットが売れやすい傾向にある。国スポも種目数を減らすという考えもあるのではないかと考える。その場合、競技毎に得られる得点に差があることも課題ではあるので、均衡化が計れるのではないかと考える。国スポでも参加数や種目数を減らすことで日程・出場選手をあえて制限することで、魅力ある大会にすることができ、収入を増やす施策につながるとも考えられる。結果的に競技スケジュールをスムーズになり、イベント価値が上がり、運営面でも負担軽減につながり良い方向に向くのではないかと。</p>
<p>○ 都道府県対抗は賛成。開催県は持ち回りで開催順が来た時には大変であるが、アスリートが大会に出場したいと考える大会を作ることが重要。全ての競技が強い・弱いだけでなく、世界で活躍するアスリートが国スポを契機に活躍していく大会にすることもできる。コンセプトを読むほど様々な考えができてしまう。選手の事を考えればよいか、運営の都合もあるので全ての人がコンセプトに賛同することはできない。その中で、どれくらいの人が賛同できるかを考えていきたい。</p>
<p>○ 都道府県対抗があるから各県から選手を派遣することが可能になるのか。どのように選手を選出するのかについて、縁もゆかりもない県から代表に選ばれることはそれで良いのか。「今後関係者となる」という考えで選手を派遣できるのか。</p>
<p>○ 他の都道府県から来ていただく選手は、県内に来ていただいて、県内のスポーツ振興にも関わってもらうことがほとんどである。どこに住んでいるかわからない選手を派遣することは国スポの制度上もできない。</p>
<p>○ 関係ない選手を呼んで来てそれが良くないとなるのは「その時のためだけに」呼んでいることが良くない。地域が大会後にどのように選手と関わるかまで含め地域が考える必要がある。佐賀県では87%の選手が国スポ終わってからも佐賀県に定着している。スポーツで移住政策を行っており、呼んでくる選手が一概に悪いとは考えていない。</p>
<p>○ 競技性の観点だけ議論するとスカウトしてくることが良くないという議論になってしまう。一方で社会性や祝祭性の観点で見ると価値があると考えられることもできる。選手が出場県を選べるようにしてはどうか。</p> <p>小学校、中学生を卒業したという理由だけではふるさととして定着しない。都道府県や都道府県スポーツ協会が選ばれる政策を実現していくことが重要なのではないかと。</p>
<p>○ 都道府県対抗は大事にしていきたい。選手を育成しているのは、各都道府県の人たちではないかということが前提にある。もちろん選手個人で大成したという考えもあるが、育成してくれた都道府県に得点を配分するという考えもある。</p>
<p>○ 国スポはアスリートのために開催される大会であると考えている。都道府県対抗であるため、福岡県では柔道の合宿を世代を超えて強化したり、ブロック内の県を呼んで来て実施している。選手のモチベーションという観点で都道府県対抗は外せないと考えている。</p>
<p>○ 都道府県という枠組みは必要だと思うが、ふるさととは、生まれ育った県だけではない。今後の人生設計も踏まえて所属都道府県は選べて良く、いくつもふるさとがあっても良いのではないかと。いかに社会貢献できるかまで踏まえて選ぶ必要がある。</p>
<p>○ 今後永住していくことまで見据えて、好循環を生み出していけるかを考える必要がある。</p>
<p>○ 都道府県対抗をベースとしながら、得点制度を踏まえた検討を進めていきたい。総合成績</p>

<p>について意見はないか。</p>
<p>○ JG1になるメリットは何か。それぞれの区分で何競技ずつを考えているのか。また、JG3、JG4になった競技を市町村が受け入れてくれないことがあるのではと懸念している。</p>
<p>○ 区分ごとの競技数については現時点で未定。全ての競技がJG1になることもある。JG1になるメリットとして、経費面、規模面等でインセンティブをつけていくことを想定する。その内容についてはTFにて考えていきたい。(事務局)</p>
<p>○ JG3、4だけなどカテゴリー単位で開催地の手上げが可能ということか。JG3、4は立候補する市町村が少なくなるという意見があったがなぜそのように思うのか伺いたい。</p>
<p>○ JG3、4だけでなく、JG1、2も含めて立候補制、固定化、ブロック持ち回り等も考えている。(事務局)</p>
<p>○ JG3、4についてはJG1、2に比べて得点が低くなる可能性がある為、やりたいという市町村が減るのではと考えている。</p>
<p>○ 3つの要素に立ちかえると「JG1」は競技性と祝祭性に特化したもの、「JG3」と「JG4」については「JGソーシャル」のような考えにしても良いのではないかと。地域に根差した区分、3つの大会の要素を持っているのは「JG3」や「JG4」と見せることもできる。「JG2」についてはこれから「JG1」を目指すというイメージではないか。今後は一人が何種目も出るということもある。「JG3」や「JG4」が新しい国スポを体現することになるのではないかと。JG1の競技を開催したければJG3の競技をいくつか行うこと、などの条件を設定することもできる。</p>
<p>○ 競技性というところに特化した得点であれば、このままでも良いが、社会性・祝祭性も含めて評価するのであれば議論が必要ではないか。カテゴリーは経費をどこが負担するかで区別してはどうか。開催地の負担となるとチケット収入が紐づいてくる。特に「JG2」については開催地が引き受けてもチケットが売れない。2036年までに競技団体に対して、チケットを売るために、種目を絞ってほしいと伝えることもできる。</p>

(2)「Ⅱ.競技会等の形式について」

事務局から資料に基づき説明。開催地の立候補制に関する意見を伺った。

<主な質問や意見>

発言等
<p>○ 立候補制を否定するものではないが、大都市以外の開催ができなくなってしまう懸念があり、地域のスポーツ振興に影響が出てくる。国スポと障スポを一緒の都道府県で行うという前提であれば、一定の県だけでなく各都道府県で行っていただくことが必要。式典の統合など負担軽減を図っていく必要があると考える。</p>
<p>○ 知事会としても同様の意見を持っている。立候補制としたときに立候補が出てこない場合どうするか。全ての県が開催できるように負担軽減を図っていくことが重要。冬季競技については開催県が限られている中で、立候補がなかった場合、特定の都道府県に急な開催</p>

<p>依頼をするのではなく、計画性・先見性を持たせてほしい。</p>
<p>○ 立候補制にすることが必要。立候補が出るような国スポになるようにしていく必要がある。負担軽減だけでなく魅力ある国スポになるように検討していく必要がある。固定化、聖地化、だけでなく、エリアも分けたときには提案のパターン④に近いように感じる。</p>
<p>○ 冬季競技は固定化していかななくてはならない。パターン④がイメージに近い。競技数については検討の余地がある。</p>
<p>○ 立候補制にすると立候補できない県もでてくる。県の実情に合わせて開催県数の変化をつけられると良い。</p>
<p>○ 当面の間は立候補制を続けていけないか、という意見。今後も検討は続けていかななくてはならないが、立候補制ベースで行きたいと思う。</p>
<p>○ 立候補制にすることで開催地が競技の在り方を検討し主体的に準備できる。チケット販売も含め、魅せる競技にしていかななくてはならない。魅せる競技にするのは施設が必要。個人的には通年、アリーナ開催できるように競技・種目を絞ってはどうかと考えている。魅力向上には、トップアスリートが参加し、照明や音響を使った演出は欠かせない。そして、国スポはこういう大会だ、という考えを打ち出していきたい。</p>
<p>○ 知事会としては「持ち回りを維持する」という意見を出しているため、「立候補制」については賛同を保留としたい。</p>
<p>○ 立候補制をベースとしたうえで、固定化などを組み合わせた形が良いと考えているが自分はパターン③が良いと考えている。特に祝祭性の観点で、1年を通じて多くの競技を行うことが盛り上がりには重要であると高校総体を見て感じている。</p>
<p>○ 単に競技を行いたいというだけでなく、大会を地域社会にどのように活用していくかの「企画書」を評価していく必要がある。</p>
<p>○ 開催地については立候補制を中心に進めていきたい。特にパターン③や④の案を中心としていく。聖地化については、異論はない。競技団体や受け入れる側とも協議する必要があると認識した。</p>

最後に、山本座長より次回以降の「負担軽減」の議論に際して、全国知事会に対し、各開催県の実態負担・経費の状況について情報収集・提示をいただくことについて依頼し、各県に協力をお願いするとの回答を得た。

次回TFの開催日程については後日調整することとした。

以上